



グローバル人材育成の場としての「国際寮」

牧田綾子 リクルート進学総研 研究員

『寮内留学』で 外国語習得+異文化理解

グローバル人材の育成が叫ばれて久しい。2020年に東京でのオリンピック開催も決定し、私たちの身近な、生活の場にも国際化の波が来ていることを実感するようになった。単に外国語を話せる人材ではなく、異文化への理解・共感、まさにおもてなしの心を持ち、コミュニケーションしていきける人材をどう育てていくかが大きな課題となっている。このようななかで、今改めて、大学の「寮」が注目されている。

かつて、大学にとっての「寮」とは、学生支援の要素が強く、通学距離が長い、交通が不便など、主に地方出身者の学生のために設けられた生活の場であった。昨今、増加しているのは、グローバル人材育成の場としての国際寮である。特徴としては、外国人留学生とルームシェアをしたり、居室以外の共有スペースを留学生と一緒に利用したりといった仕組みが挙げられる。日本にいながらにして、語学力や異文化理解、外国語のコミュニケーション力を強化できる、いわゆる『寮内留学』の場が増加しているのである。単なる“生活する場”ではなく、“教育の場”としての価値が高まっている点は、昔の寮との大きな違いといえる。

「費用」「外国語」「治安」 留学に対する不安要素を払拭

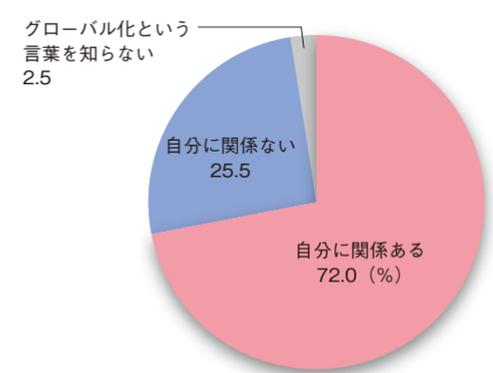
国際寮が注目される背景は、冒頭でも触れたように、急速なグローバル化である。グローバル化により、企業の求める人材も大きく変化している。単にコミュニケーションツールとして必要とされる「外国語(英語)ができる人材」だけでなく、近年尖閣問題や中東情勢等でクローズアップされてい

る「異文化を理解した人材」が求められている。そうした人材の育成に向け、政府も各大学も、海外大学との提携を強化し、ショートビジットと呼ばれる短期間から留学できるような制度を整えつつある。

一方、高校生側の意識はどうだろうか。リクルートの調査では、高校生の約7割が「グローバル化は自分に関係がある」と回答しており(図表1)、彼らなりにグローバル化の波を意識していることがわかる。しかしその一方で、実際に将来「留学したい」と回答した高校生は「できれば留学したい」を含めても、約3割に留まっている(図表2)。実際、文部科学省がまとめたデータによると、2010年に海外留学した日本人は5万8060人と、ピークだった2004年の8万2945人から6年連続で減少し、約3割少ない水準となっている(図表3)。

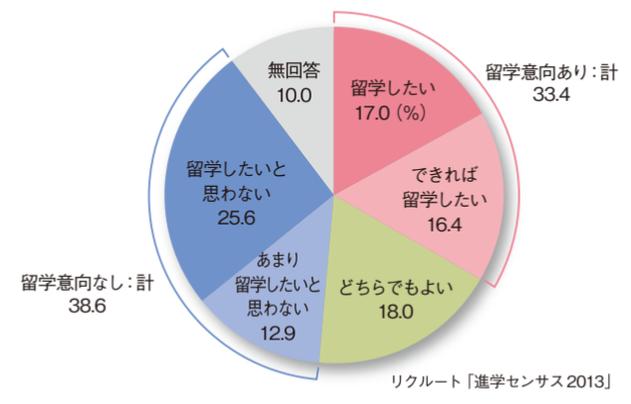
グローバル化を意識しているのに、留学には躊躇してしまう、いわゆる「内向き志向」な彼らであるが、そのハードルは何なのだろうか。留学したいと思わない理由をきいたところ、1位は「費用が高いから」、2位が「英語(外国語)が苦手だから」、3位が「そもそも留学ということを考えたことがないから」が挙がっており(図表4)、「費用」と「外国語」が大きな

図表1 高校生のグローバル化に対する意識



リクルート「高校生価値意識調査2012」

図表2 大学進学者の留学意向



リクルート「進学センサス2013」

ハードルとなっていることがわかる。実際、日本学生支援機構の2011年の調査では、1~2年未満の留学で実際にかかった費用は平均248万円と決して安くはない金額である。また、女子では、3位に「海外の治安に不安があるから」が入っており、治安という問題も大きい。

こうした高校生側の「費用」「語学力」「治安(生活)」といった、3つの大きな留学に対する不安を払拭するのが国際寮である。日本国内にいながら外国人留学生と一緒に生活することで、「外国語習得+異文化理解」を醸成する場として、『寮内留学』が注目されている。

文化の違いで生じる摩擦を 理解と対話で乗り越える

では実際に、寮の運営・仕組みはどうなっているのかを見よう。

まず、寮のレイアウトについては、大きく「ルームシェア型」と「個室+共用スペース型」に分かれる。前者は外国人留学生(ルームメイト)と部屋自体をシェアし、バスやトイレ、洗面

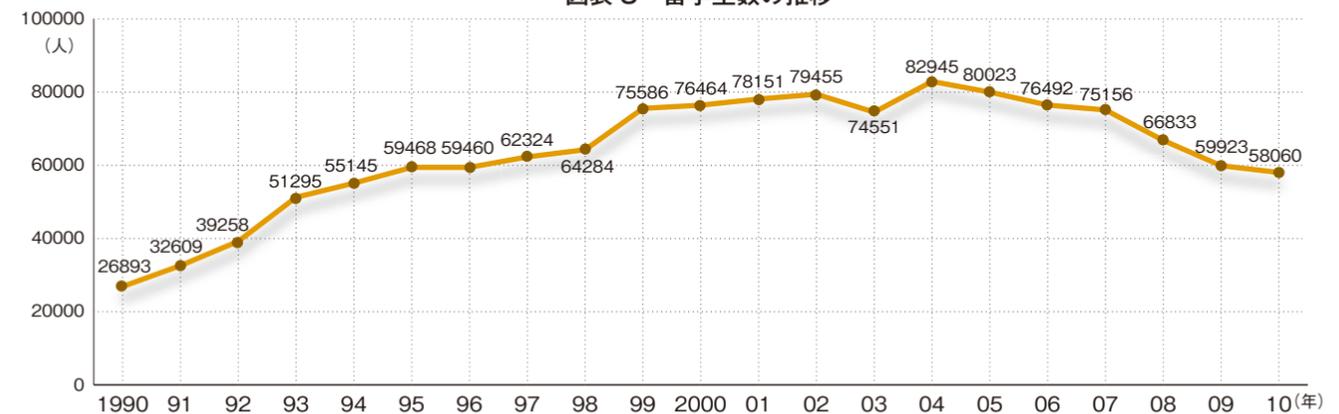
所なども共有する。後者は、プライベートが守られる個室を用意し、ダイニングキッチンやバス、トイレなどが共用になっている。東京理科大学のように、個室とシェアルーム(3人部屋)の両方に対応している寮もあり、基本的には日常生活を通じて自然に入居者相互の交流ができる仕組み作りを行っている。

育った環境が異なる外国人と一緒にリアルな日常を過ごしていくためには、様々なトラブルも生まれる。例えば、宗教や文化の違いからクリスマスパーティーを開くかどうかから始まり、掃除当番一つ取っても「使用人がすべき仕事」と嫌がる留学生もいる。お祈りの時間や場所、あるいはハラルフード(イスラム教上で許された食品)の理解に至るまで、一緒に議論しながら乗り越えるが必要となる。他者との対話の機会、さらに共同生活での摩擦を解決する過程を多く経験できることが、国際寮の大きなメリットと言える。

正課の授業とは別に、語学レッスンやグループワークなど寮独自の導入プログラムを用意して寮生活をサポートする大学もある。入学時には受験英語しか知らなかった日本人の入居者は、はじめは留学生の流暢な英語や文化の違いに戸惑う。しかし、生活のために何とか意思を伝えようとしていくうちに、だんだんコミュニケーションが図れるようになり、その経験は自信となって学生を支えていく。

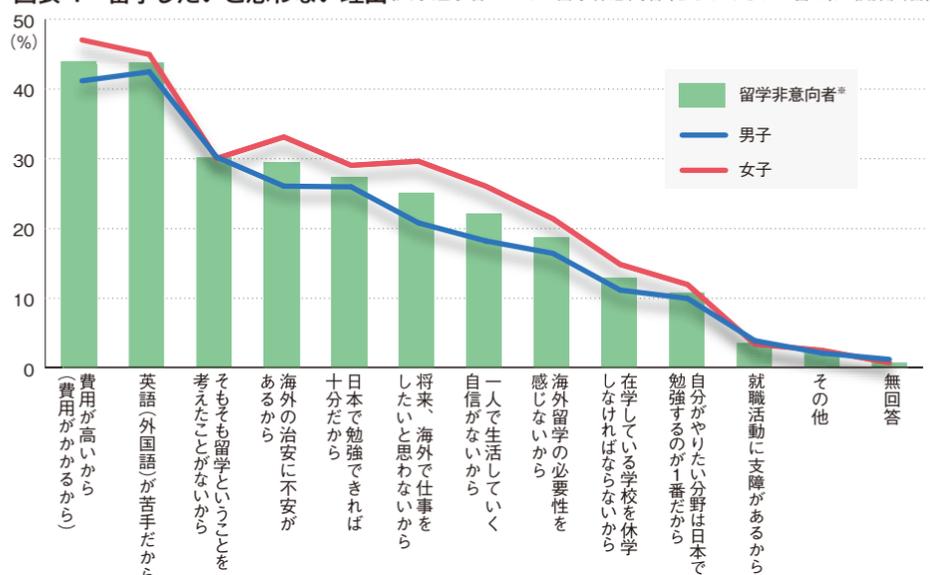
寮内の運営については、国際寮の多くが、寮生活や行事をサポートする「レジデント・アシスタント(RA)」と呼ばれる学生を置く。上記のようなトラブルに対応したり、寮内での議論を進行する学生たちで、実際彼らは就職活動での評価も高いという。困難にぶつかり、対話により自分たちで解決方法を考え、実現に至るようにアクションする、まさに社会で求

図表3 留学生数の推移



平成25年2月文部科学省集計より(出典:OECD「Education at a Glance」、ユネスコ統計局、IIE「Open Doors」、中国教育部、台湾教育部)

図表4 留学したいと思わない理由(大学進学者における留学非意向者(どちらでもよい含む)/複数回答)



*大学進学者における留学非意向者(どちらでもよい含む) リクルート「進学センサス2013」

められているグローバル人材に必要とされる力が、日常生活の中で養われているのであるから、企業からの期待値が高いのも十分納得できる。

このような教育的効果を重視して、大学側も単に寮を作るだけでなく、共用スペースを活用した国際交流イベントを行ったり、異文化理解のためのセミナーや勉強会を開催したりと、人材育成プログラムの充実にも力を入れている。

グローバル人材育成をミッションとした大学が先行

国際寮の先行事例は、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学(P12参照)、国際教養大学といった、グローバル人材の育成をミッション(教育目的)とした大学にあり、こうした大学はキャンパス全体がグローバル化した大学と言える。また、3大学とも主にルームシェア型という共通点がある(P10参照)。ほかのタイプより緊密なコミュニケーションを狙ったものだ。国際基督教大学は寮生活をリベラルアーツ教育の一部と位置づけ、キャンパス内に9棟の学部学生寮を持つ。収容定員は全学生の4分の1に当たる600人で、居室は主に2人1部屋だ。

立命館アジア太平洋大学は入居者の6割強が外国人留学生。寮内のみでの活動ではなく、寮生が老人ホームを訪問してお年寄りと交流したり、地域的美容師の方に留学生の髪を

切ってもらするなど、地域との交流や理解も重視するプログラムが実施されている。

入学後の1年間、全員が入寮を義務づけられているのが国際教養大学である。寮はキャンパス内に位置し、日本人学生が一定期間、留学生と同室になるようにしている。また、同大学では卒業までに最低1年間の留学が必須となっており、留学先国の大学でも学生寮に滞在するため、寮生活は「数年後に留学した時のための訓練」としての機能も果たしている。

このような英語漬けの大学生活は企業からも評価が高い。

総合大学や女子大、理工系大学にも設置の動きが広がる

このようにミッション系大学が先行して設置してきた国際寮であるが、ここ数年は総合大学や女子大、理工系・芸術系大学にもこうした外国人留学生との共同寮を設置する動きが広がっている。

中央大学は2011年に「国際寮」を設置(P16参照)。キャンパス外の物件を借り上げた2つの国際寮を運営している。うち、多摩平寮では、海外留学生と日本人の3人1組で、3つの個室と共有スペースからなる1ユニットの中で共生。これらの国際寮をパイロットケースとして3年間運営・検証した結果、今後は多摩キャンパス内に、新たな国際寮の建設を検討している。

福岡女子大学も2011年に「国際学友寮なでしこ」を設置(P11,30参照)。グローバルに活躍する“次代の女性リーダーを育成”することを目指している。費用は光熱費も含めて月額1万5000円。近隣の賃貸物件の3分の1と、経済面でも入居しやすい。

2012年には関西大学、立命館大学が国際寮を設置。2013年には芝浦工業大学、東京理科大学、麗澤大学(P20参照)などが続いた。芝浦工業大学は、国際感覚と人間力を持つ

た人材の育成などを目的に、大宮キャンパス内に「国際学生寮」を設置。日本人学生では入居が抽選となるほどであった。プライベートを気にする女子にも配慮し、セキュリティ機器を設置した女子のみのフロアも用意。学生同士の英会話教室などのプログラムがあり、イギリス人と日本人の夫婦が寮長を務めるなど、様々な方法で学生に刺激を与えている。

2014年には、芸術系大学で唯一、文部科学省のグローバル人材育成推進事業(特色型)に採択された武蔵野美術大学が国際寮を設置する予定。部屋は個室となるが、共同のアトリウムを設置する予定だ。同大学の交換留学協定は、現在、フランス、イギリス、アメリカなどのトップレベルの美大と締結しており、お互いの創作活動を通じて意見交換し、刺激し合える環境は美大ならではの経験と言える。

また、同じく2014年には早稲田大学が「中野国際コミュニティプラザ」とよばれる11階建ての国際寮を都内に新しく設置、定員約900人の半数を留学生にする計画を立てている。社会のニーズに応え得る人材となるため、文化の違いを英語で議論するなどの将来に必須となる能力を磨く「Social Intelligence(SI)プログラム」を実施し、すべての寮生に参加を義務付ける予定である。同大学の卒業生であり、英語を社内公用語とするファーストリテイリング会長の柳井正氏が3億円の寄付をするとの報道があり、国際的な視野を持った人材育成に対する強い期待と危機感の表れとして、大きな話題となった。

地域の国際化拠点としての国立大学の国際寮

国際寮の多くは関東を中心とした首都圏の私立大学であるが、近年、国立大学でもグローバル人材育成の機運が高まり、国際寮としての機能を高めようと、寮のリニューアルや、新規設置が再び盛んになっている。

寮の新規設置を予定しているのが九州大学である。新キャンパス統合移転事業と併せて、2006年度より日本人学生、留学生のための2つの学生寮(ドミトリーⅠ、ドミトリーⅡ)を整備してきた。2009年度には、「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択。Ⅰ・Ⅱに次いで、2014年に新しく作る「ドミトリーⅢ」は、ユニットによるシェア型となってい

るのが特徴だ。4つの個室に加えて共有のキッチン、リビングがあり、日本人学生と留学生が混在する。

一方、新規設置ではなく、既存の寮の見直し、リニューアルによって寮の教育効果を実現しようとする大学もある。

大阪大学では、「大阪大学未来戦略(2012-2015)」を掲げ、グローバルキャンパスの早期実現を目指し、「日本人学生寮の留学生混在化計画」を進行。清明寮は2013年度から留学生との混住寮となっており、もみじ寮は2014年度、刀根山寮は2015年度、向陽寮は2016年度から混住寮とする予定。

また、九州工業大学では、寮を教育の中心にするという開学時の全寮制の良さを見直し、老朽化で廃寮になっていた明専寮を、2013年に新生「明専寮」として再出発させた。寮を第2の教育の場と捉え、工学部の1年生が1年間入寮。寮における共同生活を通じて、グローバルリーダーとしての「技術に堪能なる士君子」の素養を育むため、「グローバルリーダー教養教育」「主体的イベント企画」「英語特別教育」等の寮内教育プログラムを義務化している。

寮内留学から留学へのステップアップも

これからは、ひと頃言われた世界を牽引するグローバルリーダーだけでなく、国内外を問わず、様々な場で活躍するグローバル人材が必要とされている。まさに、企業だけでなく、様々な組織において、異文化で育った価値観の異なる外国人の同僚と一緒にあって新しい価値を生み出していく人材の育成が重要になってくる。

一方、日本の若者も、海外に出て様々なチャレンジや経験を積むことが大切だが、前述のとおり、様々なハードルがあるのが現実である。大学側も、大学全体をグローバル化したキャンパスにすることは理想であるが、カリキュラム体系、教職員の組織体制など、多岐にわたる環境整備は容易なことではない。『寮内留学』は、このような社会、大学、若者のニーズに合致している教育の場といえる。実際に、『寮内留学』を通じて、様々な経験を糧に国際感覚が醸成され、外国に対する関心も高まり、次のステップとして本格的な海外留学に旅立つ学生も少なくない。

国際寮における『寮内留学』は、グローバル人材育成の新たな場として、今後ますます注目を集めていくといえる。

国際寮一覧

エリア	設置者区分	大学名	寮の名称	設置年度	収容定員(名)	居住形式	内容
東京都	私立	国際基督教大学	男子寮2棟(第2男子寮・カナダハウス)、女子寮3棟(第2女子寮・第3女子寮・第4女子寮)、男女共住寮4棟(グローバルハウス・榊寮・銀杏寮・榊寮)	1956～2011	600	ルームシェア	・寮生活をリベラルアーツ教育の一部と位置づけ、キャンパス内に9棟の学部学生寮を持つ。学部5寮(1956～1964年建築、以下同)とグローバルハウス(2001年)には1～4年生が入居。新しくできた榊寮(2010年)、銀杏寮(2010年)、榊寮(2011年)には、主に学部1～2年生が入居。 ・収容定員は全学生の1/4に当たる600名。外国籍留学生も多く居住。 ・完全個室のグローバルハウスを除き、居室は原則2人1部屋。他者との対話の機会、さらに共同生活での摩擦を解決する過程を多く経験させることが狙い。 ・寮内の運営は寮生同士が毎日集う寮会で議論し決定、意見をまとめ、ルール改善が必要な場合は大学側と交渉。
東京都	私立	青山学院大学	スクーンメーカー寮	1966	94	完全個室	・世田谷キャンパスに開設された女子寮で、2003年に相模原キャンパスに移転された。 ・第2部を除く新1年生と留学生が一緒に生活しており、国などの境を越えた交流を持つことができる。
神奈川県	国立	横浜国立大学	峰沢国際交流会館	1992	333	個室+居室以外共用	・一般学生と外国人留学生とが起居を共にして、その体験的な国際交流を通じて相互理解を深めることが目的。 ・学部・大学院生が対象で、定員は日本人学生222名、外国人留学生111名。 ・個室以外に、共用施設として、入浴施設、補食室、洗濯室などを設置。
			大岡国際学生寮	2010	311	完全個室	・入居者同士の国際交流の活性化をテーマとした、学生・研究者及び職員のための異文化共生ハウス。 ・学生用252戸、研究者23戸、教職員用36戸を備え、館内には入居者全員が利用できるカルチャーホール、留学生/日本人学生用の共同キッチンなどが設けられ、食事や勉強、他の居住者との交流の場として全入居者が利用可能。季節のイベントや文化交流パーティーも開催している。
兵庫県	国立	神戸大学	住吉国際学生寮(男子・女子寮)	1997	136	個室+居室以外共用	・日本人と外国人留学生の混住寮。国際的な交流を期待している。 ・個室以外に、談話室、キッチン、洗濯室などの共用部分を設置。
			白鷗寮(男子・女子寮)	2001～2002(改修)	264	個室+居室以外共用	・神戸商船大学に1954年に設置された日本人学生と留学生の混住寮。2001～2002年に改修、2003年に神戸大学に統合された。 ・4つの個室と共用スペース(談話室、キッチン、浴室、洗面所等)を1ユニットとして共同生活を行う。
			国維寮(男子・女子寮)	2011(改修)	134	完全個室	・日本人専用の寮だったが、2011年に留学生との混住寮に整備するため、改修工事を行った。
福井県	国立	福井大学	福井大学国際交流学生寮	2000～2002	209	個室+居室以外共用	・日本人学生と外国人留学生との相互理解を深め、国際交流を促進することが目的。2000～2002年にかけて3棟を整備。 ・共同施設はシャワー室、ランドリー、多目的ホール。
大分県	私立	立命館アジア太平洋大学	APハウス	2001	約1300	ルームシェア	・留学生と日本人学生の比率は約6:4。 ・2013年10月現在で世界56カ国・地域からの寮生が生活。 ・RA(レジデント・アシスタント)と呼ばれる学生が各フロアに2名合計64名配置され、寮生の生活のサポートプログラム作成などを行っている。
愛知県	国立	名古屋大学	国際嚶鳴館	2002	300	個室+居室以外共用	・日本人学生と外国人留学生が共同生活を通じて相互理解を深めるための場として、従来の嚶鳴館を2002年に国際嚶鳴館とリニューアル。入居期間は原則1年間。
秋田県	公立	国際教養大学	こまち寮	2004	370	ルームシェア	・2つの居室(1部屋を2人で利用)と共用部分で構成 ・入学後の1年間全員が入寮。日本人学生が一定期間、留学生と同室になるようにしている。 ・卒業までに最低1年間の留学が必須。「数年後に留学した時のための訓練」としての機能も果たしている。
東京都	公立	首都大学東京	桜都寮	2005	84	個室+居室以外共用	・寮生活を通じて学生同士が切磋琢磨し、個性や独創性を刺激しながら人間形成を行うことを目的とした新しい形の「寮」(桜都寮)を設置。 ・寮長や上級生との交流・対話による人間形成やアジアの留学生との交流による異文化交流を目指している。 ・1ユニット(6室)で共用(ユーティリティコーナー、洗面所、トイレ)。
福岡県	国立	九州大学	ドミトリーⅠ	2006	254	完全個室	・アジアを軸に世界各地と連携するキャンパス像の実現に向け、新キャンパス統合移転事業と併せて、新キャンパスの伊都キャンパスに、日本人学生、留学生のための2つの学生寮(ドミトリーⅠ、ドミトリーⅡ)を整備してきた。2014年に「ドミトリーⅢ」と「国際村」を整備する。 ・ドミトリーⅠは完全個室型、ドミトリーⅡは、単身・世帯用個室、2人ルームシェア型。新しくできるドミトリーⅢは1ユニット(4つの個室とキッチン、リビング共有)×34ユニットのシェア寮型に、日本人学生と留学生が混在する。日本人学生が留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成する。 ・寮の運営はアウトソーシング。
			ドミトリーⅡ	2008	282	完全個室	
			ドミトリーⅢ	2014	136	個室+居室以外共用	
宮城県	国立	東北大学	ユニバーシティ・ハウス三条	2007	416	個室+居室以外共用	・国際化をけん引できる人材の育成を目的に、8つの個室と共同利用部分であるオープンリビングからなるユニット構成で共同生活を行う。 ・日本人学生286名、外国人留学生130名とそれぞれ定員を設定。入居対象は同大学の新入生(編・転入学を含む)、外国人留学生で、入居期間は1年間に限る。 ・ハウスの管理はアウトソーシング。 ・2013年には大学院生が入居する国際寮として、ユニバーシティ・ハウス片平(4月)とユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ(10月)の2棟を開寮。
東京都	私立	立教大学	立教大学国際寮				・立教大学の学生専用と交換留学生も入居する国際交流を目的とした寮。 ・各寮の運営はアウトソーシング。
			(RUID朝霞台)	2008	138	個室+居室以外共用	
			(RUID志木)	2010	126	完全個室	
東京都	私立	慶應義塾大学	大森学生寮	2009	127	個室+居室以外共用	・慶應義塾大学の専用宿舎。日本全国から集まる新入生だけでなく、世界各国からの留学生も入居するので、寮生活は日常的な国際交流の場となり、寮生同士が、助けあい、学びあうことで、視野・見聞が広がり、自分を高めることができる。 ・各寮の運営はアウトソーシング。
			網島学生寮	2012	124	完全個室	
			元住吉宿舎	2013	230	完全個室	
			未来創造塾	2015	650	個室+居室以外共用	・SFC開設25周年を機に、留学生の受け入れ拡大、キャンパスの国際化の中心的な位置づけとなる仕組みとして、大規模滞在型教育研究施設を開設。 ・SFC入学者全員に宿泊滞在型授業を経験させる。外国人留学生や社会人との混在型滞在施設の中で、協創型滞在プログラムを実施。 ・宿泊施設は4人室及び1人室の2つを用意。
			国際寮	2010	245	完全個室	・外国人留学生の受け入れと、建学理念である国際的人材の育成を主眼に、留学生と日本人学生が入居し、学校にいる間だけでなく、生活の場においても国際交流を図るようにした。 ・レジデント・アシスタントを中心に、学生の自主的な管理運営を目指し、イベント部会、カルチャー部会、パブリシティ部会の3部会が活動を行っている。また学生が窓口業務など、アルバイトとしても寮で働いている。

エリア	設置者区分	大学名	寮の名称	設置年度	収容定員(名)	居住形式	内容
静岡県	国立	静岡大学	あけぼの寮	2010	91	完全個室	・日本人女子学生と外国人留学生が生活を通じて相互理解を深めるための寄宿舎。 ・収容定員は日本人女子46名、外国人留学生(男女)45名。 ・1、2Fは外国人留学生男子、3～5Fは外国人留学生女子と日本人女子が入居する個室タイプ。
愛媛県	国立	愛媛大学	御幸学生宿舎	2011	472	個室+居室以外共用	・共同生活を通じて社会性の発達を助長することを目的として設置され、2011年3月末にリニューアル工事が完了。 ・1Fにフードコーナー(食事及び売店)、2Fに多目的集会室を設け、居室は個室(男子225室、女子177室、留学生70室)を備えている。
東京都	私立	上智大学	葛西インターナショナルハウス	2011	38	個室+居室以外共用	・2011年に国際交流寮としてリニューアル。留学生と日本人学生の自然な国際交流推進を目的とした、自炊タイプの女子学生寮。 ・寮の運営はアウトソーシング。
			上智大学祖師谷国際交流会館	2012		完全個室	・日本学生支援機構(JASSO)が所有していた祖師谷国際交流会館を購入し、2012年4月から上智大学専用施設として運用を開始。 ・多文化・多言語環境の中での共同生活を通じた人間的成長を促す「インターナショナルハウス」として位置づけ、外国人留学生を中心に、遠方出身の日本人学生が共住する。 ・単身棟のほか、夫婦棟、家族棟がある。
東京都	私立	中央大学	国際寮	2011		個室+居室以外共用	・2つの異なるタイプの国際寮を運営。「りえんと多摩平244号棟」は1ユニット(3つの個室と共有スペース)に日本人・私費留学生・交換留学生の3人が共同生活するルームシェア型。「聖蹟桜ヶ丘」はプライベートを重視した1ルーム型。 ・どちらもキャンパス外の物件を中央大学専用の国際寮として借り上げ、月に1回、国際センターのスタッフが訪問する。多摩寮には、寮長、階段リーダーなどのリーダー5名を配置。
			未定	未定	500～600	未定	上記の2つの国際寮をパイロットケースとして3年間運営・検証した結果、今度は多摩キャンパス敷地内に、大規模の国際寮建設を検討中。
福岡県	公立	福岡女子大学	国際学友寮	2011	340	個室+居室以外共用	・グローバルに活躍する「次代の女性リーダーを育成」を目的として設立。 ・基本的に1ユニット(4DK)に日本人学生3人と留学生1人が共同生活を行う。 ・初年次の1年間には全寮制教育を実施。 ・月額1万5000円(光熱費含む)。近隣の賃貸物件の約3分の1)
東京都	私立	明治大学	狛江インターナショナルハウス	2011	145	個室+居室以外共用	・日本全国から集まる新入生と、世界各国からの留学生が入居し、寮生活で日常的な国際交流を体験。学内において国や人種、文化や宗教の壁を超えた友情を育み、国際感覚を身につけることができる。 ・共用部分はダイニングルーム、コミュニケーションコーナー、メールボックス、ランドリールーム(男女別)など。
大阪府	私立	関西大学	南千里国際学生寮	2012	144	個室+居室以外共用	・海外協定大学からの交換受入留学生が主な入寮対象者だが、学部・大学院の正規課程に在籍する留学生や日本人学生も入寮することができる。 ・寮では、111人の留学生と、23人の日本人学生が共同生活を行い、10人の日本人レジデンスアシスタントが留学生の日常生活をサポートしている。
京都府	私立	立命館大学	立命館大学BKCインターナショナルハウス	2012	150	個室+居室以外共用	・「国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する」という学園憲章の理念を具体化。 ・教育・研究の国際化を進めるために、外国人留学生と日本人学生が共同生活を通じて国際交流を行うことを目的。 ・共同キッチンやラウンジなどが共用部分。
大阪府	国立	大阪大学	清明寮(男子寮)	2013	清明寮(152)	個室+居室以外共用	・「大阪大学未来戦略(2012-2015)」を掲げ、グローバルキャンパスの早期実現を目指し、「日本人学生寮の留学生混住化計画」を進行中。日常的に留学生と交流することで、日本に居ながらにして異文化交流ができ、留学生にとっても早期に日本社会に順応することができると考えている。 ・留学生混住化年次計画に沿って、既存の日本人学生寮を改修中。清明寮は2013年度から留学生との混住寮となっており、もみじ寮は2014年度、刀根山寮は2015年度、向陽寮は2016年度から混住寮とする予定。
			もみじ寮(女子寮)、刀根山寮(男子寮)、向陽寮(男子寮)	2014～2016	もみじ寮(200)、刀根山寮(142)、向陽寮(104)		
福岡県	国立	九州工業大学	九州工業大学明専寮	2013	50	完全個室	・寮を教育の中心にするという開学以来の全寮制の良さを直し、老朽化で廃寮になっていた明専寮を、新生「明専寮」として再出発。 ・寮を第2の教育の場と捉え、寮における共同生活を通じて、グローバルリーダーとしての「技術に堪能なる土着の素養を育むため、「グローバルリーダー教養教育」[主体的イベント企画][英語特別教育]等の寮内教育プログラムを実施。 ・入寮対象者は工学部1年生(国費・私費外国人留学生を含む)、入寮期間は1年間。寄宿料は月額1万5000円(光熱水費4000円が別途必要)。
東京都	私立	芝浦工業大学	国際学生寮	2013	120	個室+居室以外共用	・文化交流と共同生活を通じた、国際感覚と人間力を持った人材の育成と、地方出身者の経済的負担の軽減を目的に大宮キャンパス内に設置。 ・居室は個室だが、建物2～5Fの各フロア中央に配置したコミュニケーション空間「コモンルーム/シェアキッチン」で食を通じた文化交流を行う。 ・グローバルプラザ、ミーティングルーム、ラウンジなど、国際交流の拠点としての多目的スペースを多く設置。 ・工学女子向けに女子のみの1フロア用意。セキュリティ機器も設置。
東京都	私立	東京理科大学	葛飾国際学生寮	2013	97	ルームシェア 個室+居室以外共用	・日本人学生と外国人留学生が入居し、1棟の建物の中で共に生活していくことで学生の国際感覚を醸成。 ・ワンルームとシェアルーム(3人部屋)の両方に対応。 ・寮の運営はアウトソーシング。
千葉県	私立	麗澤大学	グローバル・ドミトリー	2013	150	個室+居室以外共用	・「Global Learning Community」(国際的な「学び」の共同体)の形成をコンセプトに、「グローバル・ドミトリー」と命名。 ・外国人と日本人の共住(部屋は個室)により多文化を体験し、生活レベルの切磋琢磨を経て人格形成と社会人基礎力養成に寄与。 ・学生の自主企画による学習会や大学主催のセミナー等によって多彩な「学び」を提供。
東京都	私立	武蔵野美術大学	武蔵野美術大学学生寮(仮称)	2014	58	個室+居室以外共用	・日本人学生と外国人留学生との共同生活のスタイル。個室だが、アトリエール、食堂などは共有で使用。 ・日本人学生と外国人留学生のおおよその比率は、4～5:1 ・入居対象者は1～4年。1F10名は主として協定校の留学生が入居。2～3Fは女子学生のみ。
東京都	私立	早稲田大学	国際学生寮WISH	2014	900	個室+居室以外共用	・グローバルリーダー育成の新たな拠点として開設される「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ」内に、4人1ユニットで共生する定員900名規模の国際学生寮を開設。 ・社会のニーズに応え得る人材となるため将来に必須となる能力を磨く「Social Intelligence(SI)プログラム」を実施し、全ての寮生に参加を義務づけ。 ・住み込みのハウスマスター(管理人)夫妻が寮生の寮生活をサポートするほか、RA(レジデント・アシスタント)と呼ばれる先輩寮生が寮での日常生活や勉強、課外活動等をサポート。

★ここでは、日本人学生と外国人留学生の共同生活で、人材育成・交流を図る目的をうたった寮を国際寮と定義。
★各大学のホームページや個別取材から、現在設置または予定が判明している国際寮をまとめ、編集室で作成。
★ は、これから設置予定の国際寮。